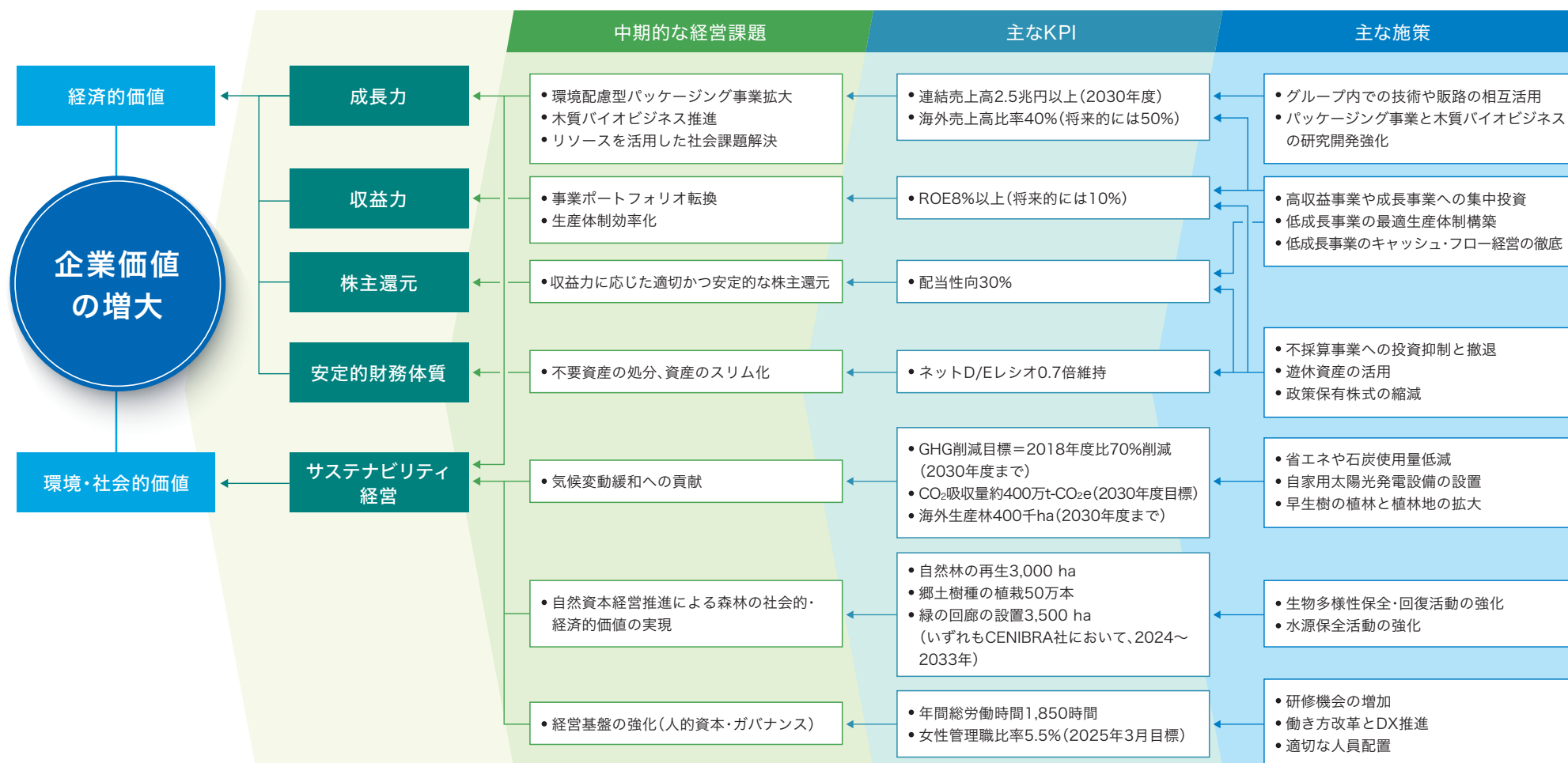


王子グループのロジックツリー

ロジックツリーは、王子グループの経営課題・経営戦略がどのように企業価値の増大へ結び付いていくかを図式化したものです。

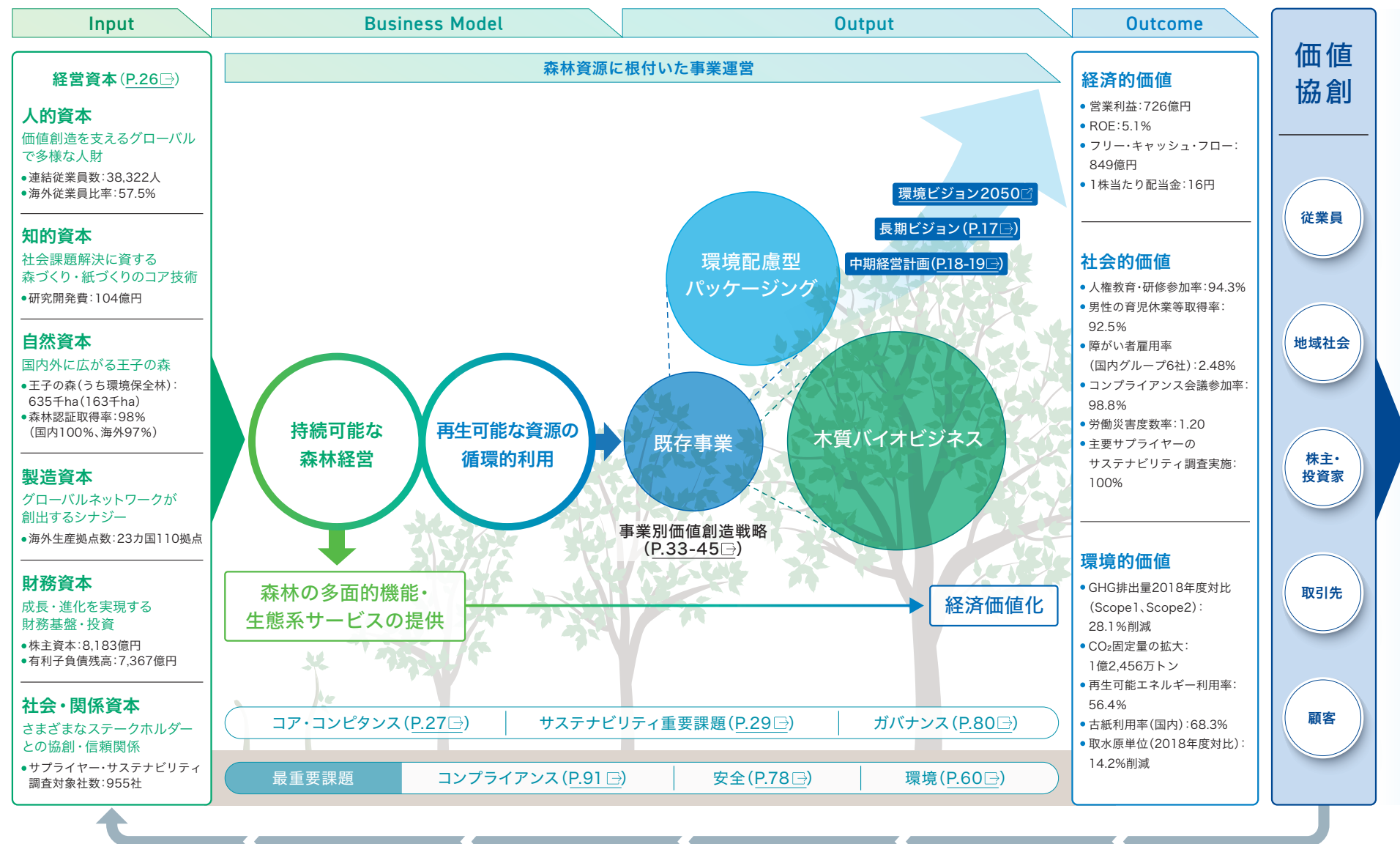
王子グループの企業価値は、主に株主や顧客、取引先へ向けた経済的価値と、全てのステークホルダーおよび社会全体へ向けた環境・社会的価値から創造されると考えています。

新規ビジネス拡大や事業ポートフォリオ転換による成長力・収益力の向上、安定的財務体質の維持による資本コストの低減、適切かつ安定的な配当政策による株主還元を通じて経済的価値の増大を図るとともに、リソースを活用した社会課題の解決、気候変動緩和への貢献、自然資本経営の推進、人的資本・ガバナンスの強化を通じたサステナビリティ経営によって、環境・社会的価値の増大を追求していきます。



価値創造プロセス

王子グループは、100年にわたって自然資本をはじめとした経営資本を活かし、150年以上の歴史の中で森林資源に根付いた事業運営を行い、再生可能な森林資源を育て、循環的に利用するビジネスモデルを構築してきました。これからもこのビジネスモデルおよび事業運営を発展させ、新たな価値を創造すると同時に、社会・環境課題を解決し、「希望あふれる地球の未来」の実現に貢献していきます。



各経営資本と強み・課題

王子グループは150年以上の歴史で築き上げてきた経営資本を源泉として、その強みを最大限に活かすことで価値創造を実現していきます。

また、各経営資本における課題を的確に認識し、強みのさらなる追求および課題の解決に向けて取り組んでいきます。

王子グループ の経営資本	人的資本 価値創造を支えるグローバルで 多様な人財	知的資本 社会課題解決に資する森づくり・ 紙づくりのコア技術	自然資本 国内外に広がる王子の森	製造資本 グローバルネットワークが 創出するシナジー	財務資本 成長・進化を実現する財務基盤・ 投資	社会・関係資本 さまざまなステークホルダーとの 協創・信頼関係
INPUT	- 連結従業員数：38,322人 - 海外従業員比率：57.5%	- 研究開発費：104億円（紙パ業界国内第1位 WDB株式会社調べ） - 保有特許権・実用新案権・意匠権数/商標権数 国内：2,772件/970件 海外：978件/1,007件	- 王子の森（うち環境保全林）：635千ha（163千ha） - 森林認証取得率：98%（国内100%、海外97%）	- 海外製造拠点数：23カ国110拠点（P.8） - 設備投資額等：1,194億円	- 株主資本：8,183億円 - 有利子負債残高：7,367億円	「王子グループ・サプライチェーン・サステナビリティ行動指針」の制定と運用（サプライヤー・サステナビリティ調査対象社数：955社） - 王子グループ企業：国内外全357社 「nepia」に代表される一般消費者向けブランド力
強み	- 調達・製造・営業など全現場における現場力 - グローバル拠点を含めた人財の多様性（インクルージョン&ダイバーシティ）、人権への配慮 - 互いの文化・風土を尊重し醸成し受容する企業文化 - 創業の精神を踏まえた高い倫理観をもつ人財とそのための教育制度 - 新事業につながる研究開発を行う技術人財の厚みと教育体制	- 特許・実用新案・意匠出願件数 国内：404件 海外：147件 2023年国内公開特許件数：364件（紙パ業界1位 株式会社パテント・リザルト調べ） - 国内グループ会社の工場各地に拠点を置く充実した研究開発体制と設備 - 森林資源を活用したイノベーションによるバイオものづくりやCNF、木質由来の医薬品などの新素材開発力（P.54） - 創業以来150年以上の知見や多種多様なコア技術	- 持続可能な森林経営（P.64） - 生物多様性の保全（P.67） - 水源涵養 - 土壌保全 - CO₂吸収力とそれによる気候変動の緩和への貢献（P.60） - 木質資源の持続的供給能力	- 紙・パルプ関連売上高世界7位、国内1位（2022年） - 国内外で新たにグループに加わった企業とのシナジー効果 - 製紙技術で培った水処理技術とその応用による水インフラ全般に対する開発技術 - イノベーションにより開発した新技術の量産化をかなえる設備 - 海外における生産能力の拡大	- ネットD/Eレシオ0.7倍維持 - 安定的な配当政策	- FTSE、S&Pなど国内外のさまざまなインデックスへの採用 - 国内外における各種の社会貢献活動 - 調査報告書、製品情報シート等提供による製品の安全に関するお問い合わせへのきめ細かいコミュニケーション対応 - 販売国数：125カ国
課題	- 経営理念・パーパス（存在意義）の浸透、コンプライアンスや安全教育の徹底 - 技術力の継承 - 若手人財の採用と育成	- 各種ノウハウの蓄積と継承 - 既存事業にない新規分野の事業に必要な技術のブレイクスルー - 外部連携の選定 - 市場の変化や顧客のニーズに対応するためのリソース	国内社有林の活用	- 労働災害の発生 - 設備の老朽化、設備更新費用 - 化石燃料使用量の低減	- 為替・エネルギー・紙パルプ市況の収益に与える影響 - 成熟した紙事業からの転換	情報の開示
強みの強化・課題解決のための取り組み	- 職場の安全衛生の確保（P.78） - 人的資本の強化（P.46）、人財育成のための各種研修・制度、「多様な働き方」や「健康経営」の取り組み	各種研修・教育制度	- 自然資本の定量評価、財務諸表に計上する自然資本会計の導入 - 生物多様性の定量化 - 海外植林地400千haへ拡大（環境行動目標2030）	- 生産余力の活用、生産体制最適化 - バイオリファイナリー事業への転換 - DX推進	収益性・成長性の高い事業への集中投資	- 木質由来の新素材事業における産官学をはじめとする社外コンソーシアムとの取り組み - ISFC立ち上げ - 森林空間を活用した環境教育プログラム開発

コア・コンピタンス

王子グループは150年以上の技術・知見の積み重ねによって得られた、森林資源に根付いた事業運営を支える、5つのコア・コンピタンスを特定しています。

持続可能な森林経営 (P.64-70)

王子グループは、国内外に635千haもの広大な森林を保有・管理しています。環境、社会、経済に配慮した持続可能な森林経営を実践することで、再生可能な資源を育てるとともに、森林の多面的機能を発揮し、生態系サービスを社会に提供しています。

再生可能な資源の循環的利用 (P.65、P.71-73)

再生可能な森林資源を育て、調達し、カスケード利用しています。また古紙を原料として繰り返し使用する紙のリサイクルを推進、市中で発生する貴重な資源を有効利用しています。さらに紙の製

造に欠かせない水も、循環・再利用することで、使用量を削減する仕組みを構築しています。

木質由来の新素材開発 (P.54-59)

新しい用途探索、実用化を進めているセルロースナノファイバー(CNF)や、バイオもののづくりの基幹物質となる木質由来の糖液・エタノール、さらにはパルプ製造時の副産物から得られる「硫酸化ヘミセルロース」を原薬とした医薬品の研究開発を通じて、新たな価値創出によりさまざまな社会課題の解決を目指しています。

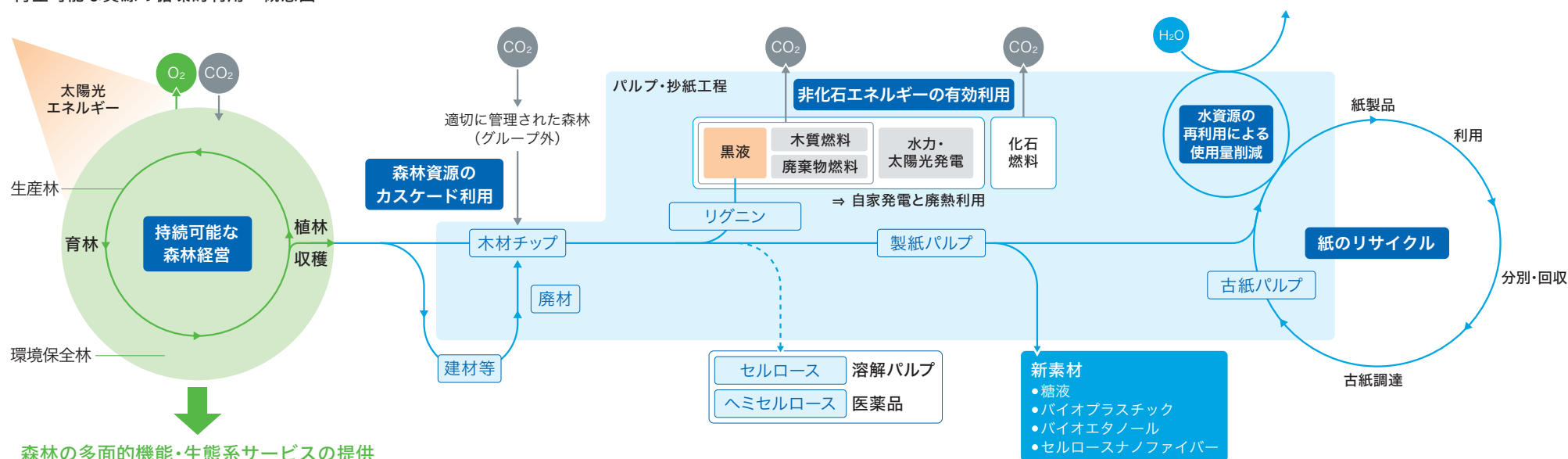
製紙基盤技術の応用 (P.33-45)

水力発電や木質バイオマス発電を中心とした再生可能エネルギー事業の展開、工業用水の製造や産業排水処理事業など、製紙事業で培った基盤技術を活用し、さまざまな環境負荷低減につながる分野で事業の拡大を図っています。

グローバルな拠点・販売 (P.8)

原紙から紙器・段ボール製造までを一貫で行うパッケージング事業をはじめ、家庭紙事業、感熱事業、パルプ事業など、積極的にグローバル展開しています。成長を続ける海外の市場ニーズに対応し、事業を拡充しています。

再生可能な資源の循環的利用 概念図



各ステークホルダーとの価値協創

私たちは全てのステークホルダー（株主・投資家、顧客、サプライヤー、従業員、地域社会）から対話を通じて寄せられる期待に応え、求められる役割を果たしながら、企業価値向上に向けてさまざまな取り組みを行っています。

	株主・投資家	顧客	サプライヤー	従業員	地域社会
ステークホルダーの期待・関心	- 企業価値向上 - 適時・適切、公平な情報開示 - 建設的な対話	- 安全安心な製品・サービスの提供 - 製品・サービスにおける信頼できる情報提供	- 公正・公平な取引 - 環境や社会に配慮した調達の推進	- 人権の尊重 - 多様な働き方を含めた多様性の促進 - 人財の確保・配置・育成・活躍 - 労働安全衛生の確保	- 地域環境の保全 - 地域社会発展への貢献
王子グループの役割	- 企業価値向上 - 適時・適切、公平な情報開示 - エンゲージメントの強化	- 安全安心な製品・サービスの提供 - さまざまな形の情報提供や問い合わせに対する適切な対応を通じた、顧客との信頼関係の構築	- 責任ある原材料調達の推進 - 環境や社会に配慮したサステナビリティ調達の拡充	- コンプライアンス・安全・環境の徹底 - 人権の尊重、インクルージョン&ダイバーシティ - 人財活用（実力主義に基づく公正な処遇とエンゲージメント向上） - ワークライフマネジメントの向上（多様な働き方・健康経営）	- 地域環境の保全 - 雇用創出 - 医療・教育支援 - 次世代への環境教育 - 文化交流
王子グループの取り組み	- 株主総会 - 決算説明会 - 中期経営計画説明会 - IR説明会 - 国内外工場見学 - 個人投資家向けIR説明会 - 決算スモールミーティング - 個別取材・エンゲージメント対応 - 海外IR - コーポレート・ガバナンス報告書発行 - 統合報告書発行 - 投資家情報サイトでの情報開示 - 外部評価機関からの評価対応 - 株主・投資家から寄せられる、王子HDコーポレートサイトへの問い合わせ対応 投資家情報サイト	- 日々の営業活動 - モニター調査 - ブランド意識調査 - 展示会出展 - セミナー開催 - Webサイト、ソーシャルメディア、TVCM等による活発な情報発信 - グループ会社お客様相談室における問い合わせ対応 - 製品安全に関するグループ各社窓口、王子HDコーポレートサイトへの問い合わせ対応 王子ホールディングスコーポレートサイト	- 王子グループ・サプライチェーン・サステナビリティ行動指針、木材原料の調達指針の策定とサプライヤーへの周知徹底 - サプライヤー・サステナビリティ調査の実施 - 木材原料サプライヤーにおけるトレーサビリティの実施 - サプライヤーから寄せられるグループ各社窓口、王子HDコーポレートサイトへの問い合わせ対応 王子グループ・サプライチェーン・サステナビリティ行動指針 木材原料の調達指針	- 王子グループ安全衛生推進計画の策定と推進 - 王子グループ企業行動憲章・行動規範の策定と従業員への周知徹底 - 王子グループ人権方針の策定と従業員への周知徹底 - インクルージョン&ダイバーシティの推進 - 役割等級制度の適正な運用 - 認定研究員制度、クリエイティブ人財育成制度の実施 - グループ公募制度の実施 - 王子グループ人財理念に沿った研修の充実化、グローバル人財の育成 - CEO含む経営陣とのタウンホールミーティング - 健康経営への取り組み 王子グループ企業行動憲章 王子グループ行動規範 王子グループ人権方針	- 工場周辺地域の清掃・美化活動 - グループ会社による雇用創出、地域医療等への社会貢献活動 - 保育園ネピア ソダテラスの運営 - 王子の森・自然学校の実施 - 環境授業の実施 - 文化・スポーツ活動（王子ホール、王子硬式野球部など）  保育園ネピア ソダテラス サステナビリティレポート

サステナビリティ重要課題 -取り組みとガバナンス体制-

■ サステナビリティの取り組みに関する基本方針

王子グループは、1873年の創業以来、150年以上にわたり事業領域を拡大し、成長を続けてきました。「革新的価値の創造」「未来と世界への貢献」「環境・社会との共生」を経営理念に掲げ、この理念を基本方針としてサステナビリティについての取り組みを進めることで、成長を続ける企業グループを目指すとともに、変化に対応し未来に向けて持続可能な価値を創出します。

事業活動を通じた持続可能な社会の構築を目指します

王子グループの基盤となる持続可能なビジネスモデルは、木を育て収穫し、また木を植える持続可能な森林経営、古紙を原料として使用する紙のリサイクル、黒液や廃材など木質廃棄物のエネルギー利用、水使用量の削減と排水の浄化に支えられています。この持続可能なビジネスモデルのグローバル展開により、持続可能な社会の構築を目指します。

環境・社会的課題の解決を目指します

王子グループは、グローバルに事業を展開する企業グループとして、国内外の環境および社会的課題の解決に貢献することを目指します。特に、「気候変動問題への対応」「生物多様性の保全」「人権を尊重する責任」は、重要なグローバル行動基準と考え、従業員のみならず、サプライチェーン全体で王子グループの方針を共有し、その周知徹底を図っていきます。

新たな持続可能な価値を創出します

サステナビリティへの取り組みは、王子グループの成長機会でもあります。環境問題への意識の高まりを受け、社会から求められる持続的価値をもつ製品を提供するために、王子グループの創業のルーツである紙づくりや森づくりで培ってきた多様なコア技術を活用し、木質資源が持つ新たな価値・機能を創出します。

王子グループは、事業活動を通じてサステナビリティへの取り組みを進め、社会的価値および経済的価値を創出し、真に豊かな社会の実現へ貢献していきます。

■ ガバナンス体制

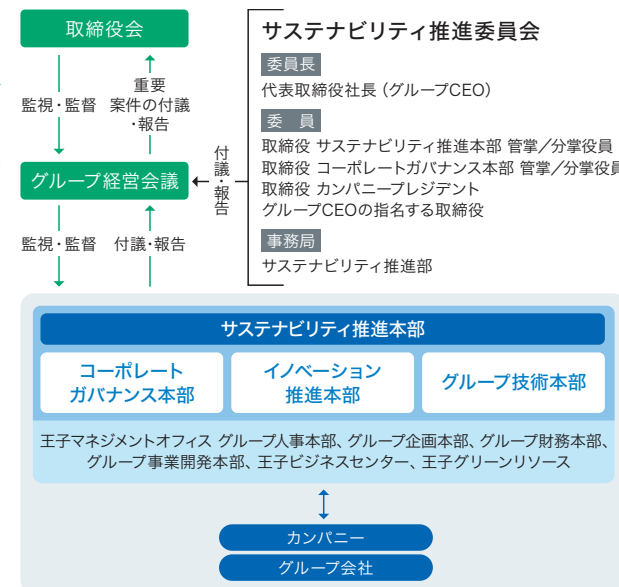
サステナビリティに関するコミットメントを果たす上で重要な事項について、サステナビリティ推進委員会で協議し、取締役会が監視・監督しています。

サステナビリティ推進委員会は、サステナビリティに関する統括責任者である、王子ホールディングスの代表取締役社長（グループCEO）を委員長、取締役（全カンパニープレジデントと女性社外取締役を含む）を委員として、年2回開催されます。ここで協議されるサステナビリティに関するリスク・機会および対応は、重要性に応じてグループ経営会議に付議・報告されます。

執行決定された事項は、グループ統括管理部門のサステナビリティ推進本部が推進します。サステナビリティ推進本部はグループ横断的なリスク・機会を特定し、グループ内への浸透を図ります。また、管掌取締役は毎月報告し、グループ経営会議に年2回付議・報告します。重要なリスク・機会は管掌取締役の判断のもと、取締役会に報告します。

サステナビリティ推進委員会の協議事項

- 気候関連のリスク・機会、およびその対応
- 自社・バリューチェーンの自然関連の依存・影響・リスク・機会とその対応、および自然資本の回復・拡大
- サーキュラーエコノミー推進
- 持続可能な森林経営
- 自社・サプライチェーンのプラスチック汚染、使用量削減
- 水関連のリスク・機会、およびその対応
- サプライチェーンリスク、およびその対応
- 環境リスク、およびその対応
- 人権リスク、およびその対応
- 腐敗防止
- インクルージョン&ダイバーシティ推進
- その他のサステナビリティに関する重要課題、およびその対応

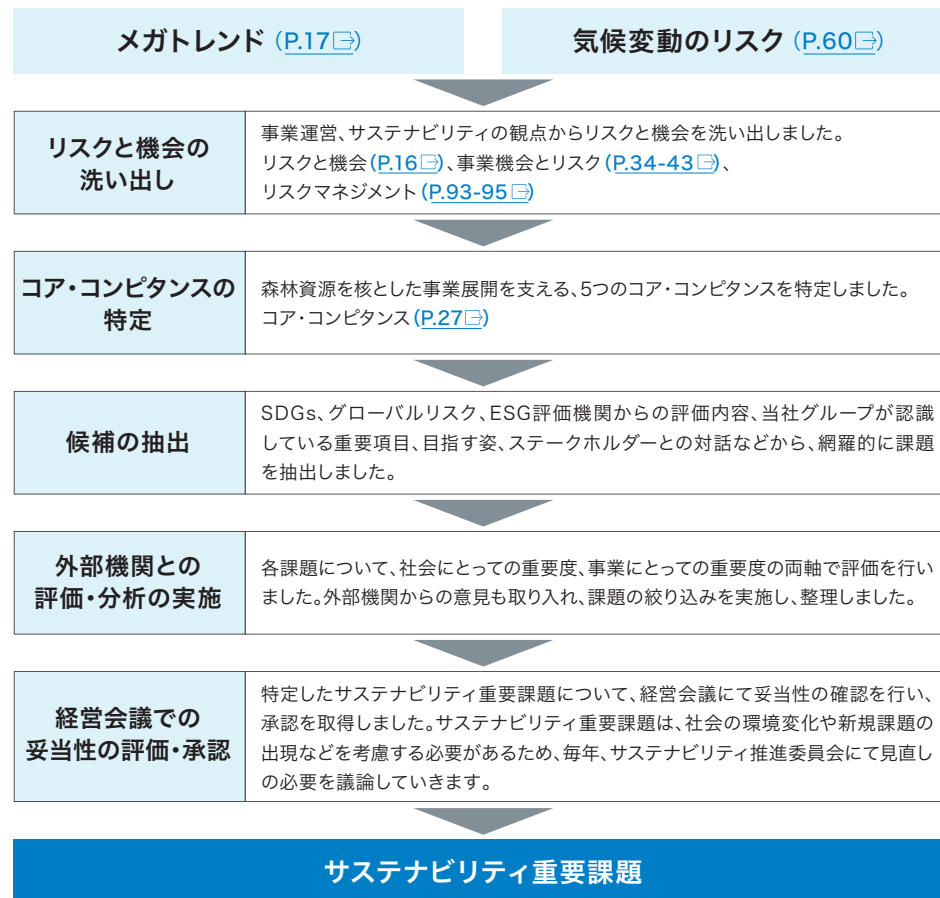


サステナビリティ重要課題 -特定プロセスと定義-

サステナビリティ重要課題の特定プロセス

王子グループは、刻々と変化する社会動向を踏まえ、事業における機会とリスクを洗い出し、2019年に以下のプロセスでサステナビリティ重要課題を特定しました。

2023年には、定義および構成要素を新たに特定し、人的資本の強化に対応するKPIを見直しました。また2024年には、生物多様性保全に対応するKPIを追加しました。



サステナビリティ重要課題と定義

サステナビリティ重要課題	定義
 気候変動の緩和・適応	サプライチェーンでのGHG排出削減、森林によるCO ₂ 吸収・固定の推進を図り、気候変動の緩和に貢献する。
 持続可能な森林経営と生物多様性の保全	保有・管理する森林において、環境および地域社会に配慮した持続可能な森林経営を実践し森林資源を活用するとともに、生物多様性保全をはじめとした森林の多面的機能を発揮する。
 資源の循環的利用	資源枯渇を防ぐため、紙および水を貴重な再利用可能な資源と捉え、循環的な利用を図る。
 責任ある原材料調達	あらゆる原材料を調達するためのサプライチェーンにおいて、環境および人権を含む社会に関する課題を看過せず、責任をもって対処する。
 環境負荷の低減	製造過程において、周辺地域への環境負荷を最小限にするために、廃棄物の削減、排水、排気の浄化を推進する。
 人権の尊重	あらゆる事業活動における人権侵害を許容しない。
 人的資本の強化	持続的成長に必要な多様な人財（人的資本）を確保・育成する。全ての人財が能力を最大限に発揮でき、働きやすい環境を整備する。
 職場の安全衛生の確保	全ての従業員および関係者の安全衛生を確保する。
 安全安心な製品の供給	世界中に安全安心な製品を供給する。

サステナビリティ重要課題 -KPI-

サステナビリティ重要課題	構成要素	KPI (重要業績評価指標) (特に記載のある場合を除き、2030年度)	現状数値 ^{※1}	主な取組	社会に提供する価値	対応するSDGs
 気候変動の緩和・適応 (P.60-63)	- GHG排出量の削減 (Scope1、Scope2) - 森林によるCO₂吸収・固定 - サプライヤー等との協働によるGHG排出量削減 (Scope3など) - 再生可能エネルギーの利用拡大 - エネルギーの効率的な利用	- GHG排出量2018年度対比70%以上の削減 (Scope1、Scope2) - GHG排出量削減：20% - 森林によるCO₂純吸収量：50% - CO₂固定量^{※2}の拡大 1億7,000万トン以上 (計算値) - 石炭使用量の低減等により、再生可能エネルギー利用率60%以上の実現 5年平均エネルギー消費原単位年1%以上の改善	28.1%削減 12.6% 15.5% 1億2,456万トン 56.4% 5.0%削減 (2019～2023年度)	- 生産効率向上、省エネルギー、再生可能燃料・廃棄物燃料の活用によるGHG排出量削減 - 持続可能な森林経営によるCO₂の吸収・固定 - 化石燃料代替としての非化石燃料・バイオマス燃料の利用拡大 - バイオマス発電事業の展開 - 環境配慮型製品の開発	- 気候変動の緩和 - 再生可能エネルギーの割合増加 - エネルギー効率の向上 - 環境に配慮した技術の向上	  7.2,7.3,7.a 12.2   9.4,9.5 13.1,13.2,13.3
 持続可能な森林経営と生物多様性の保全 (P.64-70)	- 森林の適切な管理と保全 - 森林資源の活用 - 生物多様性と生態系の保全・推進 - 地域コミュニティとの関係構築	- 海外の森林認証取得率^{※3}向上 (国内は100%維持) - 海外植林地400千haへ拡大 - CENIBRAが所有地内で再生した自然林の面積^{※4} 2024年から2033年までの期間に3,000ha以上 - CENIBRAが所有地内で植栽した郷土樹種の本数^{※5} 2024年から2033年までの期間に50万本以上 - CENIBRAが所有地外で設置した緑の回廊の面積^{※6} 2024年から2033年までの期間に3,500ha以上	- 国内：100%、海外：97% 295千ha (ウルグアイ含む) 2024年に開始 2024年に開始 2024年に開始	「持続可能な森林管理方針」に基づいた森林経営 - 森林の多面的機能の維持・拡大 - 植林の推進 - 自然の再生・回復	- 森林の多面的機能・生態系サービスの提供 - 生物多様性と生態系の保全 - 雇用の創出 - 就労・教育・医療支援	  6.6 14.2   8.7 15.1,15.2,15.3,15.4,15.5,15.c
 資源の循環的利用 (P.71-73)	- 古紙利用の促進 - 水リスクの低減	- 古紙利用率^{※7} (国内)：70%以上 - 取水原単位 2018年度対比6%以上の削減	68.3% 14.2%削減	- 紙のリサイクル (古紙利用率の向上) - 取水量削減 - 水処理事業の国内外への展開	- 気候変動の緩和 - 資源の枯渇防止 - 廃棄物削減 - 水不足への貢献 - 安全な水の供給	  6.4,6.5 14.1   12.4,12.5, 12.6 15.1,15.2,15.3,15.4,15.5,15.c
 責任ある原材料調達 (P.74-75)	- サプライチェーン上の環境配慮 - サプライチェーン上の人権配慮 - 法令・社会規範の遵守と公正な取引	- 主要サプライヤー^{※8}のサステナビリティ調査実施100% 「木材原料の調達指針」に基づくトレーサビリティ調査の実施100%	100% (2023年度、フォローアップ調査) 100%	「王子グループ・サプライチェーン・サステナビリティ行動指針」および「木材原料の調達指針」による、環境や社会に配慮したCSR調達推進	- 責任ある生産消費形態 - サプライチェーン全体の労働者の権利保護、環境負荷の低減	  8.7 15.1,15.2  12.1,12.4,12.6
 環境負荷の低減 (サステナビリティレポート)	- 廃棄物の有効利用 - 排水の浄化 - 排気の浄化	- 廃棄物有効利用率^{※9}の向上 国内：99%以上、海外：95%以上 - 排水中負荷物質排出原単位 2018年度対比15%の削減 - 排気中SOx排出原単位 2018年度対比15%の削減	- 国内：99.0%、海外：86.4% - BOD：40.7%削減 COD：9.6%削減 SS：29.4%削減 27.8%削減	- 廃棄物の削減・有効利用 - 環境配慮型製品・生分解性素材の開発 - 環境規制値より厳しい自主管理値の設定 - 排水の浄化、排出ガス中の化学物質の排出抑制	- 廃棄物削減 - 安全と健康 - 大気・水質汚染の削減	  3.9 11.6   6.1,6.3, 6.4 14.1,14.2,14.3

サステナビリティ重要課題	構成要素	KPI (重要業績評価指標) (特に記載のある場合を除き、2030年度)	現状数値 ^{※1}	主な取組	社会に提供する価値	対応するSDGs
 人権の尊重 (P.76-77🔗)	- 全ての事業活動における人権配慮 - 職場における人権配慮	対象者への人権教育・研修の実施100%	94.3% (2024年3月～5月実施、総受講者数2,547名)	「王子グループ企業行動憲章・行動規範^①」、 「王子グループ人権方針^②」の運用 - 内部監査の実施、内部通報制度の運用 - 社内研修等によるコンプライアンスおよび人権に対する意識の醸成 - サプライヤーの人権尊重等のリスク評価 - 人権デュー・ディリジェンスの実施	人権尊重	 5.1,5.4, 5.5,5.c  10.2,10.3, 10.4  8.5,8.7,8.8
 人的資本の強化 (P.46-49🔗)	- ワークライフマネジメントの向上 - 従業員のスキル向上 - インクルージョン&ダイバーシティ - コンプライアンス意識の強化	- 総労働時間 1,850時間以内 (国内本社地区26社) - 男性の育児休業等取得率100% (国内16社^{※10}) - 女性管理職比率 5.5%以上 (国内16社^{※10}、2025年3月末) - 新卒採用女性総合職比率^{※11}30%以上 - 障がい者雇用率 2.5%以上 (国内83社^{※10}、2024年6月) - コンプライアンス会議参加率100% (王子ホールディングスおよび国内全子会社)	1,835時間 92.5% 3.9% 40.6% (2024年度入社) - 国内グループ適用 6社^{※10}: 2.48%、 国内83社^{※10}: 2.19% (2024年6月) 98.8% (2023年度下期)	- 人財戦略／人財育成 - 働き方改革の推進 - ダイバーシティ推進	- 多様な人財の活躍 - イノベーションの実現 - 生産性の向上	 5.1,5.4,5.5,5.c  8.2,8.5,8.8  10.2,10.3
 職場の 安全衛生の確保 (P.78-79🔗)	- 従業員の健康促進 - 労働災害の防止	- 死亡・重篤災害^{※12}ゼロ (毎年度) - 労働災害度数率^{※10} 2018年 (0.89) 対比50%削減	2件 (2023年1月1日～ 12月31日) 1.20 (2023年1月1日～ 12月31日)	- 安全衛生管理体制の確立と安全衛生活動の推進 - 機械・設備、作業等における安全確保の徹底 - 安全教育の推進 (VRによる危険体感教育の展開等) - 従業員の心身の健康促進 - 快適な職場環境の整備	安全と健康	 8.8
 安全安心な製品の供給 (サステナビリティレポート🔗)	- 製品の安定供給 - 製品品質の確保	製造物責任事故0件 (毎年度)	0件	- 自社製品の安定供給 - 関連法規遵守およびそれを上回る自主管理値に合った安全な品質設計・管理 - お客様への原材料 (薬品、資材) の安全性情報の提供 - FSC®認証製品 (FSC®C014119他) の供給	- 安全安心な製品提供 - 環境負荷の低減 - 開発途上国への環境に配慮した技術普及	 9.4,9.b  17.7  12.4,12.6

※1 集計期間：記載のある場合を除き、2023年4月～2024年3月、または2024年3月31日時点。対象範囲：記載のある場合を除き、国内外の連結子会社

※2 CO₂固定量 (CO₂トン) 生産林：各年度末残存蓄積量×バイオマス拡大係数×容積重×(1+地下/地上比)×炭素率×CO₂換算係数

環境保全林：各年度末残存面積×自然林の地上/バイオマス×(1+地下/地上比)×炭素率×CO₂換算係数

※3 森林認証取得率：〔海外〕自社所有生産林における面積比率、〔国内〕分収林を除く社有林における面積比率

※4 風倒、火災等で失われた自然林を再生するために植栽等を行った面積

※5 所有する自然林内で植栽した本数

※6 土地所有者と連携し、分断された自然林の間の荒廃地の植生回復を促し、野生動物が行き来できるように、フェンスで囲って保護した面積

※7 古紙利用率＝古紙消費量÷全繊維原料消費量 (古紙、木材パルプ、その他繊維原料の消費量合計)

※8 取引額上位75%のサプライヤー

※9 廃棄物有効利用率＝(廃棄物発生量－埋立量)÷廃棄物発生量×100

※10 算出方法P98参照

※11 新卒採用女性総合職比率：王子マネジメントオフィス一括採用 (スポーツ採用者を除く)

※12 重篤災害：王子グループでは、労働者災害補償保険法施行規則 別表第一障がい等級表の第三級以上の災害を重篤災害としています。